



柴田 佳奈 (しばた かな) みなみ野中 2年生

作品名:心に響く言葉

図 書:松岡修造の人生を強く生きる83の言葉

ネガティブな私。すぐに諦めてしまう私。そのくせ後悔ばかりする私。私はこんな自分を変えたい。もっと明るくて、最後まで自分の力を出し切れるような人。途中で諦めて後悔するのではなく、最後までやり抜き、喜んだり悔しがったりできる人。何より前向きな自分になりたいとずっと思っている。

そんな私が今年「松岡修造の人生を強く生きる83の言葉 弱い自分に負けないために」に出会った。松岡さんは元男子プロテニス選手のテニス指導者だ。この本には、松岡さん自身、読者、そして日本を応援する、松岡さんが生んだ言葉が八十三個書いてある。テレビではわからない松岡さんの魅力がよくわかってくる。また、彼の言葉の深さもわかってくる。

実は、「松岡修造」という人物は、ポジティブな人間ではない。テレビで観る「松岡修造」は積極的で熱い男だ。だが、元々の「松岡修造」はそうではない。本の中で松岡さんは自分のことを「人と比べるとかなり消極的で弱い人間です。」と紹介している。

これを読んで私は驚きを隠せなかった。あんなにポジティブで前向きで熱い人が、消極的なわけがないじゃないか。そう思ったとき、次の文で納得した。

「だから、苦しいとき、辛いときは自分を鼓舞しようと『修造、がんばれ!』『大丈夫。できる』『絶対できる』と声に出し、ときには心の中で強く叫び続けてきました。」

ああ、そうか。彼は自身の弱さをかき消しているんだ。彼が彼自身を本気で応援した言葉、前を向けるように本気で言った言葉だから、彼の言葉は熱く、力強いのだ。

松岡さんの言葉はどれも素晴らしく好きだが、本の中で特に好きな言葉で勇気もらった言葉が三つほどある。

一つ目は、「苦しいか?修造!笑え!」だ。

以前病気で療養をしていた時期があり、絶好調だったテニスも練習ができなかったことがあるそうだ。その辛い状況の中で「笑う」ということを学ぶ。困難な時ほど笑い、乗り切り前向きに生きる。演技でも笑っていれば疲れも苦しさも吹き飛ばすと彼は言う。私はテニスのダブルスの試合でミスをしてもお互いに「ドンマイ、次キマるよ！」と笑って言うようにしている。ここで焦った顔、苦しい顔をしてしまうと、ペアの雰囲気がかんぱん暗くなり、試合も悪い方向へ行くと思うからだ。「笑う」ことはやはり大切だと改めて感じた。

二つ目は、「桜を見てみろよ。桜はな、一年のこのときのためにすべて出しているから美しいんだ」だ。

彼はここで花火と桜の話を紹介している。花火は、職人が一発一発の細かい作業に本気で取り組み準備しているから美しい。そして桜も開花までの準備に手を抜かない。厳しい自然の中で花を咲かせるため、全力で力を蓄えている。だからこそあの美しい満開の花となるのだ。これは勉強やスポーツにも言える。例えばテスト。毎日本気で勉強に取り組めば良い結果になる。スポーツも、毎日全力で練習すれば実力は上がり、本番で勝つことができる。「本気」「全力」は簡単にできることではないけれど、適当に流すことだけはしたくないと思った。

三つ目は、「大丈夫。大丈夫って文字には、全部に入って文字が入っているんだよ」だ。

これは私が一番好きな言葉だ。何故「大丈夫」と言われると人は安心するのか。松岡さんの言葉のとおり、「大丈夫」の文字全てに「人」が入っている。「ひとりじゃないんだよ」と彼は言う。自分の気持ち弱くなって下を向いてしまうとき、周りにはたくさんの方がいる。自分を応援したり、励ましてくれる。自分はいろいろな人に支えられて生きている。だから、自分の周りの人が下を向いたらその人に「大丈夫」というようにしている。この一言は力強くて、独りじゃない、みんながいる、そう思える言葉だ。挫けそうになったら「大丈夫」と唱え、前を向いて真っすぐ進んでいける。「大丈夫」は素敵な言葉だ。

ネガティブ心を変えるのは難しいが松岡さんは自分のネガティブをかき消している。そこが私と彼の違いだ。ネガティブをやめ「たい」んじゃなくて、やめ「る」んだ。苦しいときは「笑う」。「本気」で「全力」で頑張れば結果はついてくるし、諦めない。独りじゃない、「大丈夫」、みんないるから最後までできる。このように、この本には心に響く言葉が八十三個もあった。力強くて、深い言葉。この言葉で、私は少し、ネガティブな心も弱い心も強くなれそうだ。前向きに進んでいこう。そして私は、弱い自分に負けず、人生を強く生きる。